
メダバトル

前田洋祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メダバトル

【Zコード】

Z5702A

【作者名】

前田洋祐

【あらすじ】

色々あって、メダバトル部に入ることになった、主人公リュウとその仲間達の物語。

第一話・出会ご

中学を卒業して、
高校に入学、
テキトーな部活に、
入ろうと思っていた、
変なイジメられっ子に
会つまでは・・・・・。

俺の名前はリュウ！
中学を卒業して、
今日から高校生だ！
色々あって、中学時代は
全然もてなかつた！
だからこそ！高校生活を
エンジョイしてやるぜ！

入学式が終つて、教室にクラスの全員が集まつた。

先生

「どーも！はじめまして！これから君たちの担任になる！ビシビシ
行く！生意気言つた奴は！ぶん殴るからなあ！・・・・・・・・きつ
く言つて『メンね』

リュウ

「（こいつなんだ？間寛平かつづーの…）」

暇なリュウは、

後ろの席の男に話しかけた。

リュウ

「なあーお前なんか部活入るの?」

後ろの男

「え?僕?!.!」

リュウ

「話しかけられたくらいで驚きすぎーとか名前何?」

シユウ

「ゴメンナサイ!..えーと名前はシユウです

リュウ

「俺はリュウーよろしくなー!..」

シユウ

「よろしくおねがしいます・・・」

二人が話してゐる間も、

担任の訳のわからない

話しが続いている。

担任

「えーまずはモノマネしまーす!..

うざこのでー一人の会話に戻る。

リュウ

「は？ボクシング部？お前にや無理だろ？明らかに弱そーじゃん！」
シユウの腕を見て言った

シユウ
「僕、中学の時3年間イジメられて……、僕……強くなりたいんだ！！！」

後半でかい声で言ったので、担任以外の全員が、こっちを見た。

リュウ
「ばか！声がでかいんだよ！」

シユウ

「『メンナサイ……、やつぱり僕みたいな奴には無理かな。』

リュウ
「さあ？やつてみないと、わからねーよ」

シユウ

「僕、部室に入部届だしにこく興氣もなくて……」

リュウ
「根性ねえなあー！」

キーンゴーカーンゴーン！

とりあえず一時間が終った、今日は2時間で終わりだから、あと一時間だ。

二人の話は続いていた、廊下から窓を開けて、

アホみたいな男が話し掛けてきた。

アホ

「あーーー！リュウじゃん！違うクラスだよなあ！淋しいなあ！」

リュウ

（また、アホが来た……）で、なんの用？カイリ！」

カイリ

「あー冷たいねえ！んでさ！部室に何入るの？俺はメダバトル部に入る！」

リュウ

「メタバトル部?なんだそれ?お前知ってるか?」

シユウ

すみません、僕も知らないです。

カイリ

「あー君たちは時代遅れだねえ！ナレーションさん！説明よろしく

（メダバトル部）とは

一対一、もしくは、ペアで戦う、何でも有りの格闘技である！
勝負に勝つと相手が持つメダルを一枚奪えるのだ。

ちなみに学生ルールなので凶器は禁止。

使える武器は木刀などだ。ちなみに学生試合もプロの試合も一試合

10分、違う点は、学生試合は3ラウンドまで、プロの試合はどちらかが、ギブアップするか戦えない状況になるまで続く。

カイリ

「こんな感じ！」

リュウ

面白そうだったなあ

シユウ

卷之三

カイリ

「じゃあ!! 二ツ!! 三ツ!! 入れよ!!」

リュウ

「無理！俺はバス！」

二二

一 僕・・入ります！！！」

カイリ

「おー入るの? でも俺は一週間後にはいるよ? 用事があるからねえ」

リュウ

「シユウー…お前まじか？やめとけよー！」

カイ

「んじゃ！俺は教室帰るわ

アホが帰った後も
話は続く

「入ります！決めました！だから今からついてきてくださいー。」

「今から～今は一時間田で・・・」

リュウ達が話している間に、一時間目が終つて、みんな帰り始めていた。

リュウ

「マジかよ・・・。漫画じゃん。」

シユウ

「おねがしーますーつこひきへだせー！」

リュウ

「まあついていくよ、俺は入らないからな！」

「ありがとうございます。早速行きましょう。」

ショウはリコウの腕を掴んで走りだした。

リュウ

「うわわわわ！」

一話に続く・・

第一話・流れに流されて（前書き）

主人公リュウが流れに流れまくります！いっきにキャラが増えて可笑しくなりました！ワラ

第一話・流れに流れに流されて

流れに流されてリュウは、メダバトル部の部室前にきた。

リュウ

「でけー！体育館並みのでかさだな！」

シュウ

「よし！入りましょー！」

リュウ

「お前、キャラ変わつてないか？」「

ガラガラガラガラ。

扉を開けたら、

中には、5人くらいの男女がいた。
みんなは練習を中断して
リュウ達の方へ来た。

デカイ坊主

「なんのようだね？」

金髪の女

「もしかして・・・・・・」

ちび男

「侵入部員か！」

クールな男

「侵入じゃない・・・新入部員だ・・・」

マネージャー?

「そうなんですか?」

リュウ

「あーーーもうーーー一気に話しつけんなよーーー俺は付き添いで來たりyu
うだよーーー」

シユウ

「入部届け持つてきました」

マネージャー?

「あーーやつぱりーーつけしーなあーー」

デカイ坊主

「までーー入部試験に合格しないとーー」

ちび男

「まあーーいいじゃんーー合格でーー」

金髪の女

「たしかに試験はやらなきゃね」

シユウ

「試験つて?」

マネージャー?

「まあその前に血口紹介ね！ナレーションをさ…よろしくおねがいします！」

（部員紹介）

デカイ坊主で柔道を得意とするのが（ゴン）

金髪の田舎者の悪い女、カボユラーを得意とするのが（リン）

ちびの男で帽子をかぶっている、玩具を武器とするのが（サスケ）

黒髪のクールであまり喋らない男、竹刀を武器とするのが（カイ）

マネージャーの（ユキ）

他一人がいます

リュウ

「俺帰つていいか？」

ユキ

「ちょっとまつて！あなたにお願いがあるの。今から、この子の入部試験があるので、試験内容は試合をしてもらつわ！そこであなたに！」

ゴン

「セコンドをやつしもひつわー！」

リュウ

「はあ？ 何で俺が？ わけわかんねえよ！」

サスケ

「氣にしない氣にしない！」

59

わが二十九歳の誕生日に、一人とも準備しない！」

リコウ・シユウ

「はい！」

「えーと相手はー誰がいいかな?」

カイ

俺が・・・やる「N

リン

「いいけど手を抜きなさいね！」

カイ

「わかっている…………」

サスケ

「じゃあ俺がセコンドするよ」

「だいじょぶかな」

リュウ

「気にすんな！とにかく攻めろ！技術もないんだから避ける」とも

不可能だぜ

シュウ

「わかつた」

タイマーなどの準備が整つて今試合が始まるー。

ユキ

「それでは行きます！入部試験試合ー・レディーー・ゴーーー！」

試合が始まった、始まつてすぐにシュウがいきなりパンチを出した！
しかし軽く竹刀で打たれて倒れた。

リュウ

「おーい！生きてるかあ！あーあー意識飛んでるよ！」

カイ

「だめだな・・・

リン

「だめだね」

ゴン

「だめだ」

サスケ

「あーざんねん」

ユキ

「やはりダメでしたかあ」

そのときコウが立ち上がり、部員を睨み言った。

リュウ

「こいつは中学生の時にイジメられてたんだ、そんな奴が、今いきなり、おまえらに勝てるわけねーだろー！」

ゴン

「勝て、とは言つてない、少しほは才能が無いと危険なんだよ。」

リュウ

「才能が無い奴は、その分、努力で埋めるんだー！こいつにはそれができる！」

ゴン

「しかしなあ」

リン

「無理なものは無理よ」

ユキ

「あきらめでください、すみません」

サスケ

「残念だあーねえー！」

カイ

「帰れ・・・」

リュウ

「へやー。」

おっさん

「おーいー待て」

部員一同

「ハーチー。」

リュウ

「なんだよ。」

おっさん

「わしに提案があるんだが・・・聞くか?」

リュウ

「だからなんだよー。」

おっさん

「お前も試験受けろー。お前が合格したらー一人とも入部だー。」

部員一同

「ハーチー。」

リュウ

「受けたやるよー。(あれ?俺も入部するの?なんでだ?)」

おっさん

「よしー!カイー!お前がやれー。」

カイ

「わかりました・・・」

リュウ

「ぶつ倒してやるよー！（あーもう！俺のモテモテ高校生活エンジョイしてやるぜ！計画があー！）」

つづく

第三話・第一部終了

流れに流されて
リュウはカイと戦う事になつた。
果たしてリュウの実力は！

カイ

「準備は・・・できたか・・・・？」

リュウ

「いつでも、OKだぜ」

カイは竹刀を握り、リュウは拳を握つた。

他の部員は気軽に見ている、リュウの実力を見るまでは・・・。

ユキ

「それじゃーいきます！メダバトル！レディーーゴーー！」

試合は始まつたが二人は動かない、
お互い睨み合つてゐる・。

リュウ

「なんだよ？！かかつてこねーのか？」

カイ

「俺から・・・行つていいのか・・・・」

リュウ

「あーー！もう！調子狂うなあ！！」

リュウは走りだした・・・。
カイはカウンターを決めるつもりで構えている。

カイ

「お前も・・・不合格かな・・・」

リュウ

「さあ？どうかな？」

リュウはカイの目の前に来て、しゃがんだ。

カイはリュウの予定外の動きに、竹刀を空振りしてしまった・・・。

カイ

「しまった・・・」

リュウ

「アゴが丸見えだぜ！」

リュウはカイのアゴにアッパーを、くらわした！

カイ

「ヴ・・・・・・何だ・・・？」

バタン！！

カイが倒れた・・・

リュウ

「これで、シユウは合格なんだろ？」

「一チ

「もちろんだ！一人とも入部だ！」

リュウ

「悪いけど俺はバスーじゃあなー帰るわ！」

部員一同・「一チ

「えー————！」

部員全員がリュウを、おいかげた！

リン

「またんかい！」らあ！入部しなさあーー！」

ゴン

「お前は才能があるんだよ！入部だ！」

サスケ

「までーー鬼！」ひーだあーー！」

ユキ

「お願ーしますーーあなたなり、アマチュア最強になれますーー！」

リュウ

「来るなあーー俺は高校生活エンジョイしてやるんだあーーモテモテになるんだよおーー！」

部室ではカイとショウが田を覚ました。

カイ

「俺・・・・負けたか」

カイは部室を出ていった。

ショウ

「あれ・・リュウさんは・・帰ったのかな」

ショウは負けたことを思い出し、落ち込む、そこに、コーチが話し掛けてきた。

コーチ

「明日から毎日5時からの朝の練習に参加しなさい」

ショウ

「え? 僕は負けたんですよ・・・」

ショウは涙を流しながら問い合わせる。

コーチ

「理由は部員に聞け!とにかく明日から、メダバトル部の部員だ・・・いい友達だな。」

ショウ

「ありがとうございます!」

ショウ

「友達・・・?あ!リュウさんが!-?」

ショウは部室を飛び出した

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5702a/>

メダバトル

2011年1月22日14時10分発行